

自立支援介護による認知症ケア その実践と考察

～ 修復された家族との繋がり ～

個別ケア

認知症ケア

自立支援介護

キーワードについては
必ず3つ記入の事！！

特別養護老人ホーム 女満別ドリーム苑

発表者
(研究者)

介護リーダー

そのう

園 生

みちや

道 也

施設の概要

※ここに記載した内容のうち、発表内容に直接重要な関係を持たない事項については、本資料をもって発表の際の説明から省略してください。

設置主体	社会福祉法人 女満別福祉会	経営主体	社会福祉法人 女満別福祉会
開設年月日	平成6年4月1日	所在市町村	大空町
市町村人口	7,765 人	65歳以上人口 (高齢化率)	2,432 人 (高齢化率 31.3 %)
利用者定員数	60 人	利用者平均年齢	88.5 歳
職員数	47 人	職員数内訳	介護職 34 名 看護職 5 名
併設施設・事業	短期入所生活介護施設 (10床)、通所介護事業、訪問介護事業、居宅介護支援事業他		
施設のサービスの概要	女満別ドリーム苑は平成6年4月の開設以来、個人の尊厳の保持と地域連携の思想を基本理念とし、公正・公平かつ健全で活力ある法人運営に努めております。平成24年度より全国老人福祉施設協議会主催の介護力向上講習会へ参加し、本年2月に「日中おむつ使用率0%」を達成致しました。		

発表の概要

①取り組んだ課題

認知症の粗暴な周辺症状により、家族(特に妻)の介護負担が著しく、当施設に入居となったY氏。入居後も施設の生活に馴染めず、帰宅願望の訴えが日に何度も聞かれていた。スタッフからの声かけに対しても粗暴な言動や行動がみられていたが、自立支援介護の基本である「水・食事・排便・運動」を中心としたケアを提供することで認知症の症状に改善がみられたため報告致します。

②具体的な取り組み

- 介護力向上講習会【北海道分校】への参加で得た知識を基に
- 個別アセスメントに基づき、1日の水分ケア計画を立案 (1,250cc→1,800cc)
 - 歩行器を使用した歩行運動の実施 (立位訓練、歩行訓練2人介助から1人介助へ)
 - 生理的排便の確立 (下剤の中止、食物繊維の補てん、腸内環境の改善)
 - 食事環境の改善 (安全な食事の提供と安定した必要カロリーの摂取)

抑制的な受け取られ方をするような言葉づかいをしない等、ご本人に対する関わり方をスタッフ間で統一した

③活動の成果と評価

- 帰宅願望の訴えが聞かれなくなり穏やかに生活できるようになった
- 普段の生活においてスタッフに対する粗暴な言動、行動が激減した
- 認知症の周辺症状が改善することで、ご家族との外出を楽しむことができるようになった

④今後の課題

- 入居者様の外出の機会を増やして生活の幅を広げる
- 施設全体における認知症ケアの確立
- 認知症ケアの地域への普及

⑤参考資料など

竹内孝仁(2012)自立支援介護ブックレット『①水』『②歩行と排泄』『③認知症ケア』『④食事』(筒井書房)